

リノベーション・実証の概要

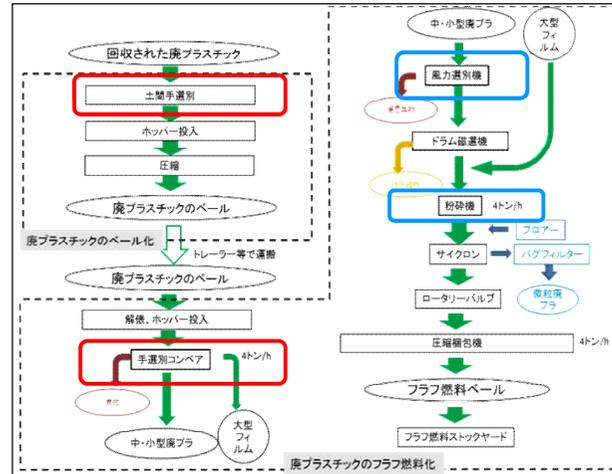
【事業概要】

フィリピン国セブ島において、分別回収された廃プラスチックを圧縮する設備とフラフ燃料を製造する設備(50トン/日)を設置し、廃棄物の脱埋立及びセメント工場における石炭代替燃料化によるCO<sub>2</sub>削減に貢献する。

【リノベーション及び実証の実施項目】

- 1) ごみの分別排出ルールが日本と異なり浸透していない点及び雨期の影響を考慮した、手選別工程、湿式粉碎機等の適用
- 2) 電力費、人件費が日本と異なる点を考慮した、機械化部分と人手で処理する部分とのバランスの最適化

受入からフラフ化までの工程図



※赤枠の部分が導入する手選別工程  
 ※青枠の部分が導入する湿式粉碎機及び風力選別工程

導入する湿式粉碎機



手選別ライン



対象とする国・地域の概要

セブ本島全体



地図データ©2015 Google

セブ市近郊を中心に左図を拡大



地図データ©2015 Google

※両地図上の2点の内、向かって右側がペール化施設、左側がフラフ燃料化施設設置候補地

フィリピン国セブ島: 現在約500トン/日発生している廃棄物のほとんどが埋立て処分されているが、JICAの普及・実証事業の成果により、廃プラスチックのセメント燃料化リサイクルの規模拡大へのニーズが高まっている。

対象とする国・地域における事業化・普及の見込み

事業化見込み

- STEP1(平成27年度): 実証設備設置候補地の選定、環境社会配慮調査、共同出資会社の設立、設備一部発注
- STEP2(平成28年度): 設備残部分発注、設置工事、実証開始
- STEP3(平成29年度): 実証継続、CO<sub>2</sub>削減量モニタリング

普及の見込み

平成32年度までに稼働時間延長により75トン/日へ拡大、平成42年度までに設備増強によりセブ島全体から発生する廃プラスチック150トン/日の代替燃料化へと普及させる。